

松の實をとるは、肥て成長宜しくうるはしき松毬まつかき内邊にて松かきと云、畿をとりて、日には

しよきた、き落し、紙袋やうのものにいれ、貯へおき、春二月にとり出し、右杉苗床の通り地ごし

らへして、蒔やうも、圍ひ方、覆ひの仕方、も、杉苗と同じやうに致し育なば、其秋貳三寸に伸べし、

是は實を賞翫するもの、苗とちがひ、雄苗をなを賞すれば伸、おそきは多分雌苗めななれば、間引まびきすて、雄

苗をそだつるやうにすべし、十月末にのこらすこき揚て、畑にうねを切、根をかさねならべ入、土

を覆ひ、上に古俵にて覆ひをし、雪霜をいとふべし、苗床少しならば其ま、置上に藁にてざつと

覆ひを致してよし、暖國ならばたとへ苗床廣くとも、其ま、置て小竹を伐て幾本も土にさしこ

み、竹の葉にて苗を覆ふ様いたし置ば、寒氣をいとふ也、こき揚て圍ふたるも、其ま、置て圍ふ

たるも、春二月に掘いだし、餘り長き牛房根ははさみ捨圖のごとく略○圖畦をこしらへ、貳行に間

八寸ほどおき植ならべ、十日もすぎて薄小便をかけ、根際に芥の腐りたるを入、夏の土用まへに

厩肥やうのものを根ぎはによけて施し、草をとり根に鋤を入育つれば、秋の末には八寸あるひ

は壹尺にも伸べし、冬は其ま、置てよし、又寒氣つよく雪のふる所にては、木の根に藁をうすく

置べし、春二三月比掘あげて、山にうつし植て宜し、今一年貯へおきうつしてもよし、

〔草木六部耕種法十一〕需花松ハ黒松モ赤松モ、山上眞土ノ高燥ノ所ニ宜シ、肥養ニハ禽獸魚介ノ肉ヲ

腐シテ用ベシ、又油糟モ妙ナリ、凡ソ松モ盆栽等ニ造リ、或ハ花壇ニ栽タルヲ、種々盤屈マカリクチタル雅狀

ニ造ルニハ、實生二年ナル松苗ノ勢壯ナルヲ、根ヨリ上ヲナギナガラ曲テ、竹カ皮付ノ木ニ卷付テ、

蕨繩ヲ以テ縛シ縛シソノ竹カ木ヲ地ニ刺込テ、松ニ肥養ヲ懇ニ培ヒ育ルトキハ、盤曲タル儘ニテ肥

リツ、古木ノ形容ヲ成就スル者ナリ、何レノ木ヲ屈曲セシムルニモ、皆其枝ヲナギ心持ニテ曲

ザレバ折損フモノト知ルベシ、既ニ幹ヲ卷付タル上ニテ、又枝へ竹ヲ添へ、或ハ銅線カ蕨繩等ニ

テ枝ヲ卷キ、柎ナガラ曲屈テ望ノ如クニ造ルベシ、